

Seiko Philharmonic Orchestra

聖光学院管弦楽団



第 3 回定期演奏会

指揮 高橋隆元

グルック
(ワーグナー編曲)

歌劇「オーロラのイフィジェニー」序曲
(アウリスのイフィゲニア)

メンデルスゾーン

ピアノ協奏曲第1番 ト短調 Op. 25

独奏 有森直樹

ブラームス

交響曲第1番 ハ短調 Op. 68

2010年 9月11日(土)

神奈川県立音楽堂

17:30 開場 18:00 開演

一般 1,000円 全席自由

大学生以下 500円



SEIKO GAKUIN

聖光学院管弦楽団

2007年12月、聖光学院の創立50周年記念演奏会として、生徒と教員・保護者・OB・その他関係者によるベートーヴェン交響曲第9番「合唱付」全楽章の演奏会を行ないました。

聖光学院管弦楽団は、その時の演奏の感動を忘れられない参加者の要望を受け、保護者・OB・その他関係者により結成されたオーケストラです。

「紳士たれ！」という校訓に育まれた生徒の保護者・OB・またその理念に共感して集まった人々が、心を一つにして厳しい練習を積み重ねた「聖光サウンド」を、ぜひ多くの皆さんにお聴きいただきたいと思ひます。



2009年9月12日第1回定期演奏会 フィリアホール



有森直樹 / ピアノ

1965年山形県鶴岡市生まれ。桐朋学園高校音楽科を経て、桐朋学園大学を首席で卒業。

桃華楽堂において御前演奏を行う。その後、桐朋学園研究科に学ぶ。

1986年第55回日本音楽コンクールに優勝し、演奏活動を開始。1987年第2回日本モーツァルトコンクール第1位、アメリカ(セントルイス)において、ウィットカ国際コンクールに入選。1989年日本国際音楽コンクールで奨励賞を受賞。1992年チェリスト安田謙一郎氏の企画する“ベートーヴェン室内楽

作品全曲演奏会(全26回)に全て出演し、好評を博す。1993年より3年連続に渡り、全日本学生音楽コンクールの審査員を務める。2000年日本フィルハーモニーと協演。2003年東京に於いてデビュー15周年の記念リサイタルを開催。2005年オペラシティに於いてリサイタルを開催。国立音楽大学オーケストラと協演。堀米ゆず子氏と共演。2006年にはクラリネットのチャールズ・ナイディック、2007年にはフルートのハンスゲオルク・シュマイサー、2008年にはヴァイオリンのヤノーシュ・マテー、チェロのフランツ・アマンの各氏と共演。2009年フロイデシンフォニーオーケストラとブラームスのピアノ協奏曲を協演。2010年3月浜離宮ホールにてリサイタルを開催。

佐藤則子、五十嵐和子、故・田沢恵巳子、林秀光、大島正泰の各氏に師事。現在、国立音楽大学専任講師、及び、桐朋学園大学非常勤講師。



高橋隆元 / 指揮

15歳頃より独学でピアノ及び音楽理論・作曲などを学ぶ。国立音楽大学ピアノ調律科に入学、在学中より指揮活動を始める。

卒業後は調律の仕事の傍ら指揮活動を続けていたが、31歳の頃より本格的に指揮の勉強を始める。指揮をクルト・レーデル、高階正光、湯浅勇治(年齢順)の各氏に師事。東京指揮研究会会員。

2000年3月30日に三鷹市芸術文化センターで行なわれた、ドイツ連邦共和国大使館後援のシンフォニッシェ・アカデミー・トーキョー「ベートーヴェン交響曲連続演奏会」で、交響曲第2番、第4番、その他を指揮し、好評を博す。同年8月、ハンガリーのブダペストで行なわれたクルト・レーデル国際指揮者コンクールにおいて第3位受賞。受賞者記念コンサートにおいてプロコフィエフの古典交響曲を指揮した。9月にはハンガリーのブダペスト・フォークホールでの演奏会に客演、ドホナーニ交響楽団を指揮し好評を得る。

1998～2007年まで9年間にわたり、ピリオド奏法を取り入れている武蔵野室内アンサンブルの常任指揮者を務める。在任中の第10回記念定期演奏会ではさらにホールにおいてモーツァルトのピアノ協奏曲20番K.466を弾き振り好評を博した。他にもフロイデ・シンフォニー・オーケストラ、三鷹市管弦楽団、尾原勝吉記念オーケストラ、TAMA21交響楽団等において指揮者を務めながら近年少しずつ活動の範囲を広げている。

神奈川県立音楽堂

JR・市営地下鉄「桜木町」駅下車徒歩10分
京浜急行「日ノ出町」駅下車徒歩13分

